

令和4年度静岡県緑化推進有識者会議 委員意見（概要版）

令和4年9月22日  
WEB開催

●全般的なことについて

発言内容	発言者
<p>公共緑地公園や街路樹を維持管理していくうえで発生する枝や落ち葉などの「緑の廃棄物」について、どのように活用していくかを考えなければいけない。</p> <p>例えば、バイオマスで利用するにしても、量は十分に確保できるが、輸送コストがネックになっている。</p> <p>落ち葉などは肥料にして、有機農業を始めたい人に使ってもらうなど、維持管理の結果出てきた産物を次のステップの方々に使ってもらえるようなリレーがあっても良いのではないか。</p>	飯塚委員
<p>静岡県は東西南北に長く高低差もあるので、環境生態学的な部分から、緑化もそれぞれの地域性があつた方が良いのではないかと思う。</p> <p>花や緑、芝生も一律ではなく、何かエリアごとの特性を住民に理解してもらうなど、後期に向けてそのような取組を進めて欲しい。</p>	西森委員
<p>静岡県は広く、棚田やアカマツ林など、植生の分野においても様々な地域課題が出てきている一方、中学校、高校では地域の課題をみんなで考えるという取組が学習指導要領の元で広まっている。子どもたちを巻き込む形で地域の課題を共有し、解決に繋げていけば子どもたちのモチベーション向上につながり、例え進学して他地域に転出したとしても、大人になって地元に戻ってくるなど、担い手確保にもつながっていくので、是非学校との連携も考えていただければ良いと思う。</p>	渡邊委員

●事業、取組のPRについて

発言内容	発言者
<p>日本平夢テラスは業者や緑化関係の方々が尽力してきれいにしていると思うが、観光資源としてもっとPRした方が良い。</p> <p>単にきれいな写真だけではなく、ドローンの活用などそこから見えるスケール感やまとまりのある景観が伝わるようなPRが大事だと思う。</p>	飯塚委員
<p>静岡県造園緑化協会のホームページでは、団体の紹介や事業内容、行政や任意の団体との連携を様々な角度からPRしており、活動に参加したい、何か関わりたいと思った人に魅力を伝える内容になっている。</p> <p>緑化推進計画の後期取組では、取組内容をどのようにPRするか、魅力をどのように売り込むか、という観点で進めて欲しい。</p>	
<p>ホームページの閲覧数を目標にしている取組があるが、若者はホームページをあまり見なくなっているため、インスタやTwitterからホームページに呼び込むなど、SNSの連携といった取組を進めて欲しい。</p>	渡邊委員
<p>景観まちづくり課は県内のすてきな景観をインスタで上げており、花緑活動と景観が美しいことは親和性が高いため、何かの形で連携できれば良いと思う。</p>	

●SDGsの視点について

発言内容	発言者
<p>SDGsの目標には17番に実施手段（パートナーシップで目標を達成しよう）があり、様々な団体がいろいろな形で関わることで、継承性、継続性を維持していくことが重要だと思うが、特に取組番号2（花の都づくり）では、様々な団体、企業に関わり取組を継承していくことが重要であるため、交流を深めていって欲しい。</p>	
<p>公共緑地公園や街路樹を維持管理していくうえで発生する枝や落ち葉などの「緑の廃棄物」について、どのように活用していくかを考えなければいけない。 例えば、バイオマスで利用するにしても、量は十分に確保できるが、輸送コストがネックになっている。 落ち葉などは肥料にして、有機農業を始めたい人に使ってもらうなど、維持管理の結果出てきた産物を次のステップの方々に使ってもらえるようなリレーがあっても良いのではないか。</p>	飯塚委員
<p>SDGsの時代には、樹木や球根類は単に配布するだけでなく、維持管理して増やしていく方向に向かっていくことが重要であり、樹木、球根類等の維持管理や再生に関する資料の配布や講座開催といった取組を進めて欲しい。 また、寄せ植えやハンギングバスケットを作成すると多くの残土が出るが、現状では廃棄されているため、土の再生方法、土の生かし方を、是非子どもたちに花育として教えて欲しい。</p>	矢澤委員
<p>枯れ葉やビール、ワインをつくったときに出る残渣など廃棄物には様々なものがあるが、廃棄物処理法により、それらを買収することすらできない状況にある。 国の考え方が変わり、産業廃棄物は廃棄するだけでなく、枯れ葉は宝だ、土は宝だといった方向に向かって行かなければSDGsは回らないのではないか。</p>	
<p>10年くらい前はとにかく花があればいい、というようなキラキラした飾り付けがはやっていたが、今はSDGsの時代なので、植生の多様性や時代に合わせたデザインを取り入れていくことが重要ではないかと思う。 自分が携わった三島市の中央水道跡公園は静岡県景観賞を受賞したが、単に市販の花苗を植えるのではなく、地元にあったコナラの木を活用するなど、庭師に相談してその土地にあったものを植えるといったコンセプトが評価してもらったポイントではないかと思う。そのような考え方も、しっかりと落ち着く場をつくることのできるということを、広く県民の方々にも知っていただきたい。</p>	渡邊委員

●棚田の保全について

取組番号6 しずおか棚田・里地くらぶ（農地保全課）

発言内容	発言者
<p>棚田の保全について、自分も静岡県の棚田があるエリアのまちづくりに参加しているが、実際土地を持って耕している方々からすれば担い手の確保が課題であり、ここに対する支援が必要ではないか。 たまに手伝いに来るなど、外部からの応援を増やしていてもなかなか維持管理は難しくなっているため、担い手確保や維持管理に対する何らかの支援をしてほしい。</p>	西森委員

●ふじのくに色彩・デザイン指針について

取組番号7 ふじのくに色彩・デザイン指針（景観まちづくり課）

発言内容	発言者
説明や研究会を行っているがあるとあるが、具体的にどのようなことをしているのか教えて欲しい。	西森委員

●芝生について

取組番号9 芝生の普及支援、管理支援（静岡県グリーンバンク）

取組番号10 芝生アドバイザーの育成・活用（静岡県グリーンバンク、芝草研究所）

取組番号11 用途に応じた芝生の開発（芝草研究所）

発言内容	発言者
自分はガーデナーとして芝生があるガーデンの設計をしているが、芝生一辺倒の時代は終わったと感じている。植物も多様性の時代に入っているため、例えば校庭等も10%だけその地域の植物や在来種を植えるなど、芝以外の植物の一緒に栽培していくことが、これからの芝生のあり方ではないかと思う。	矢澤委員
使用する芝生の種類については素晴らしい研究成果が出ているが、肥料は何を使用すれば良いかといった研究開発も是非進めて欲しい。 自分もビール酵母を使った肥料を使用して良い結果が出ている。静岡県は芝生に対しての熱意があるため、肥料、施肥に関する研究開発についても学会等に発表して欲しい。	

●公共施設の緑化

取組番号15 公共施設の緑化（県立美術館、地球環境史ミュージアム、グランシップ、舞台芸術公園）（文化政策課）

取組番号15 公共施設の緑化（日本平夢テラス）（観光政策課）

発言内容	発言者
公共施設の緑化で、日本平夢テラスには本当に日本的で美しい前庭がある一方、駐車場から庭に上がっていくところの花壇は地域の人たちが維持管理しており、プロの仕事で維持管理された前庭と一般の人がボランティアでやっている花壇のギャップが大きく、せっかくの善意が台無しになってしまっている。 日本平夢テラスに限った話ではなく、似たようなところが他にもあり、そのようなところにこそアドバイザーが入ってうまく共生できるようにすれば良いのではないか。	西森委員
最近、都市公園等で20年の長期間にわたり、企業などが管理を行う事例（Park-PFIの活用）が増えてきているが、静岡県内でそのような事例があれば教えて欲しい。	飯塚委員
取組個票の中で「適切な維持管理」という表現が多く出ているが、この資料の内容では適切かどうかの判断ができないため、維持管理内容についてももう少し具体的に教えて欲しい。	矢澤委員

●アカマツ林の再生について

取組番号16 県立森林公園アカマツ林再生（環境ふれあい課）

発言内容	発言者
県立森林公園アカマツ林再生は、行政だけではできないことではないので、その松林に興味のある様々な方が関わり、松林を維持する意義を是非共有して欲しい。	飯塚委員

●緑化コーディネーターの育成・活用について

取組番号29 緑化コーディネーターの育成・活用（静岡県グリーンバンク）

発言内容	発言者
緑化コーディネーターの育成・活用は特定の団体が担当していることが多いが、そこに関わりたい、また興味があるという人たちは多くいるため、そのような方々と連携し、継続性、永続性、継承性を持つ取組として欲しい。	飯塚委員